

中学校学習指導要領保健体育科編におけるソフトボールの変遷に関する研究
A Historical Study on the Change of National Curriculum in P.E. of Japan.
～Focusing particularly on the position of Softball～

1K08B010-6 新井智咲

指導教員 主査 友添秀則先生 副査 吉永武史先生

1 研究の動機

学習指導要領はすべての教科で発表され、社会情勢の発展に伴い、学校教育に対して各種の問題が提示されるとともに、さまざまな要請もなされ改訂を繰り返してきた。中学校学習指導要領保健体育科においては1947(昭和22)年の学校体育指導要綱から来年度から中学校で完全実施される新学習指導要領まで7回の改訂が行われてきた。

ソフトボールは、1969(昭和44)年の改訂により、一度は学校体育から姿を消したが1989(平成元)年の改訂により再び復活した。ソフトボールが排除された理由と復活した経緯を調べ、今後の学校体育におけるソフトボールの位置づけについて理解を深めていく。

2 研究の目的

第二次世界大戦後から現在に至るまでの中学校学習指導要領の変遷を各時代の社会情勢との関わりと照らし合わせながら明らかにし、学校体育としてのソフトボール種目の位置づけと今後の在り方について考えていく。

3 研究の方法

研究は文献講読によって行う。1947(昭和22)年の学校体育指導要綱から、2012(平成24)年完全実施の新学習指導要領までの中学校学習指導要領におけるソフトボールの変遷とソフトボール関連書物などそれに関連する文献によって歴史的研究を行う。また、文献での情報が不足しているところはインターネット検索により情報収集を行うこととする。

4 各章の要約

第1章では、第二次世界大戦後にアメリカ体育を基盤とした「経験主義体育の時期」における中学校学習指導要領保健体育科の目標と、この時期の要領におけるソフトボールの位置づけについて述べていく。

第2章では、体力づくりへの社会的要求を受けながら学校教育活動全体を通して体力向上を目指した「体力主義体育の時期」における体育科の目標と、この時期の要領におけるソフトボールの位置づけについて述べてい

く。

第3章では、運動への愛好的態度の育成を目標とした1977(昭和52)年の要領から、生涯スポーツにつながる能力の育成といった今日に至るまでの「楽しい体育の時期」における体育科の目標と、この時期の要領におけるソフトボールの位置づけについて述べていく。

5 論文のまとめと今後の課題

学校体育におけるソフトボールの教材は、学習指導要領として、1947(昭和22)年の「学習指導要綱」が発行されてからさまざまな変化を見せながら今日まで取り扱われてきた。

体力主義の時代に突入していった1958(昭和33)年要領から序所にその位置づけが低くなり、1969(昭和44)年の要領ではついに中心教材から外れてしまった。そこには、単なる運動量の問題だけでなく、球技の特性や球技の共通性が指摘されソフトボールが学校体育で扱われなくなったとされている。

しかし、平成の時代に入るとソフトボールは再び学校体育に復活する。そこには、生涯スポーツとして“いつでも、どこでも、だれでも、手軽に、楽しく安全にプレーできる”という利点があったからだ。また、当時ソフトボールは国民的スポーツといってもいいくらい広がっているスポーツだったのであったため、生涯スポーツの視点で学習指導要領を手直しするとすれば、当然入らなければならない種目であった。

しかし、このまま正課体育としてソフトボールが継続して扱われていくためには、さらなる努力と工夫が必要である。どのようなボールを用いてどのようなルールで実践するべきか、さらに生涯スポーツの時代にあって、授業でソフトボールを学んだ生徒が、生涯にわたってのソフトボール愛好者となるために、どのようなシステムづくりをしなければならないのか等、真剣に検討しなければならない。生徒にソフトボールの楽しさを正しく理解させ、生涯にわたってソフトボールを楽しむことが出来る身体と知識を養わせたいものである。

